

1. 略歴

1981年3月	東京大学文学部第三類フランス語フランス文学専修課程卒業
1981年4月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学（仏語仏文学）
1985年4月	東京大学大学院人文科学研究科専攻博士課程進学
1985年9月	パリ第3大学博士課程（～1989年3月）（フランス文学、フランス政府給費留学生）
1989年4月	東京大学文学部助手
1990年4月	一橋大学法学部専任講師
1993年4月	一橋大学法学部助教授
1997年5月	一橋大学大学院言語社会研究科助教授
2000年4月	東京大学大学院総合科学研究科助教授
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2012年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授、現在に至る

2. 主な研究活動

a 専門分野

ジェラルール・ド・ネルヴァルの作品を中心とするフランス・ロマン主義文学。近現代小説論、翻訳論、映画論。

b 研究課題

- (1) フランス・ロマン主義文学における「作者」像の成立と変容。
- (2) フランス19世紀文学史の再検討。
- (3) 近現代文学における「翻訳」をめぐる問題の探求。
- (4) フランス映画における「作家主義」の再検討。

c 概要と自己評価

(1)については、科学研究費を得て、18世紀文学やロマン派音楽の研究者も含む横断的、複眼的な探求を試みた。その成果の一端を刊行することができた。

(2)については、(1)の研究と連動しつつ、とりわけジェラルール・ド・ネルヴァルの代表作『火の娘たち』の翻訳・研究を進め、ロマン主義的ポエジーと小説的リアリズムの相互関係の考察を深めている。また19世紀の小説に大きなインパクトを与えたプレヴオの小説『マノン・レスコー』を詳細な解説を付して翻訳刊行した。

(3)もまた、(1)および(2)と緊密に関連する主題であり、「作者」の問題を考える際に「翻訳者」という補助線を引くことが意義をもつというアイデアのもと、フランスおよび日本の作家における事例を探っている。その具体例として井伏鱒二論を書き進めており、近々単著として刊行の予定である。

(4)に関しては、フランス映画理論史上、最重要の存在とみなされるアンドレ・バザンの研究を継続し、一次資料を検討しつつ、「作家主義」の実相を考察している。

d 主要業績

(1) 著書

野崎歓、『夢の共有——文学と翻訳と映画のはざままで』岩波書店、2016年、212p.

『文学批評への招待』丹治愛、山田広昭編、2018年、放送大学教育振興会、分担執筆（野崎歓、「4 小説の分析」 pp.70-86；「5 映画の分析」 pp.87-101）

(2) 論文

野崎歓、「井伏鱒二論 第一章「鱒二は修業中です」」、「すばる」、2016年5月、pp.200-215

野崎歓、「井伏鱒二論 第二章 ドクトル・イブセの翻訳教室」、「すばる」、2016年7月、pp.314-330

野崎歓、「第三の性と出会うとき——フランス文学とホモセクシュアリティ」、「すばる」、2016年8月、pp.94-103

野崎歓、「井伏鱒二論 第三章 架空の日記の謎」、「すばる」、2016年9月、pp.228-245

野崎歓、「井伏鱒二論 第四章 「こころ悩めば旅にいだよ」」、「すばる」、2016年11月、pp.268-286

野崎歓、「歌声と回想——ルソー、シャトーブリアン、ネルヴァル」、塚本昌則・鈴木雅雄編『声と文学——拡張する身体誘惑』平凡社、2017、pp.256-275

野崎歓、「井伏鱒二論 第五章 戦場のドクトル・イブセ」、「すばる」、2017年3月、pp.306-323

Kan Nozaki, « Gérard de Nerval et le partage du rêve », *Revue Nerval*, Paris, Classiques Garnier, n.1, 2017, pp.43-58

- 野崎敏、「井伏鱒二論 第六章 水のほとりは命のただ中」、「すばる」、2017年5月、pp.214-233
- 野崎敏、「井伏鱒二論 第七章 宝さがしの旅」、「すばる」、2017年7月、pp.218-238
- 野崎敏、「井伏鱒二論 第八章 田園に帰る」、「すばる」、2017年9月、pp.252-274
- 野崎敏、「フランス文学から映画へ——ロベール・ブレッソンの場合」、小川公代・村田真一・吉村和明編『文学とアダプテーション——ヨーロッパの文化的変容』春風社、2017年、pp.35-60
- Kan Nozaki, « Nerval à la lumière de Said : au-delà de l'orientalisme », *Gérard de Nerval, histoire et politique*, sous la direction de Gabrielle Chamarat, Jean-Nicolas Illouz, Mireille Labouret, Bertrand Marchal, Henri Scepi, Gisèle Séginger, Paris, Classiques Garnier, 2018, pp. 85-98

(3) 書評

- 野崎敏、クツツエー『イエスの幼子時代』書評「北海道新聞」2016年7月24日朝刊
- 野崎敏、墓田桂『難民問題』書評、東京新聞、2016年11月20日朝刊
- 野崎敏、バーナビー・コンラッド三世『アブサンの文化史』書評、日本経済新聞、2月26日朝刊
- 野崎敏、「世界文学の海原をへめぐる精神の航跡——池澤夏樹『世界文学を読みほどく』」、「波」、2017年4月、p.92
- 野崎敏、「ここではなく、別の場所へ——金井美恵子『カストロの尻』」、「波」、2017年6月、p.20
- 野崎敏、ロマン・ガリ『夜明けの約束』書評、「週刊読書人」、2017年7月14日
- 野崎敏、キン・フー、山田宏一、宇田川幸洋『キン・フー 武俠電影作法 新装版』書評、「キネマ旬報」、2017年8月下旬、pp.148-149
- 野崎敏、オリヴィエ・ブルドー『ボージャングルを待ちながら』書評、日本経済新聞、2017年10月26日
- 野崎敏、陳浩基著・天野健太郎訳『13・67』書評、「中央公論」、2017年12月、pp.192-193
- 野崎敏、空族『バンコクナイト 潜行一千里』書評、「文藝」、2018年春、p.497

(4) 学会発表・講演

- 中条省平、野崎敏、三浦哲哉「ヌーヴェルヴァーグを総括する」、日本フランス語フランス文学会 2016年度春季大会、学習院大学、2016年5月28日
- 野崎敏、「鷗外とフランスの絆」、文京区立森鷗外記念館、2016年10月22日
- 中条省平、野崎敏、「ジャック・ドゥミの世界」、日仏会館「映像と講演」、2017年2月15日
- 野崎敏、「ノワール映画の系譜 フランスから香港へ」、東京国立近代美術館フィルムセンター、2017年9月30日
- 野崎敏、「アダプテーションの『新しい波』ヌーヴェルヴァーグとバルザック」、日本比較文学会 2017年度東京支部大会シンポジウム「アダプテーションの力」、2017年10月15日
- 野崎敏、「『マノン・レスコー』の時を超える魅力」、光文社古典新訳文庫 Readers Club Reading Session、第37回、紀伊国屋書店新宿本店、2018年1月26日
- 松浦寿輝、野崎敏、堀江敏幸、「フランス文学夜話」、代官山蔦屋書店、2018年3月13日

(5) 啓蒙

- 野崎敏、「ことばのプレゼント」、「基礎英語」2016年4月、第73巻第1号、pp.126-131
- 野崎敏、「PICKUPMOVIE」、「芸術新潮」、2016年4月、p.145；5月、p.145；6月、p.137；7月、p.147；8月、p.217；9月、p.137；10月、p.145；11月、p.147；12月、p.111；2017年1月、p.129；2月、p.129；3月、p.145；4月、p.145；5月、p.145；6月、p.123；7月、p.161；8月、p.147；9月、p.147；10月、p.129；11月、p.129；12月、p.169；2018年1月、p.121；2月、p.121；3月、p.161
- 野崎敏、「目をつぶってはならない ポール・アンドリュウ・ウィリアムズ監督『アイヒマン・ショー』」、「すばる」、2016年5月、pp.340-341
- 野崎敏、「ロメールと女たち」、「キネマ旬報」、2016年4月上旬、pp.38-41
- 野崎敏、「映画が尾行するとき——アダプテーションの力」、『二重生活』パンフレット、スターサンズ/ミラクルヴォイス、2016年6月
- 野崎敏、ジャック・ジャンクー監督『山河ノスタルジア』評、日本経済新聞、2016年4月22日夕刊
- 野崎敏、ジャック・ドゥミ監督『ローラ』解説、『ローラ』DVDリーフレット、アイ・ヴィー・シー、2016年6月中条省平、野崎敏対談、「映画と文学の間でたえず、揺れ動いて」、「キネマ旬報」2016年通巻2533号、No.1719、7月上旬、pp.58-66
- 野崎敏、「シャルリを憐れむ歌」、「ふらんす」、2016年7月、p.14
- 野崎敏、「純白の花嫁 チェ・ドンファン監督『暗殺』」、「すばる」、2016年8月、pp.304-305
- 野崎敏、「母にめぐりあうために」、ウニー・ルコント監督『めぐりあう日』パンフレット、『EQUIPE DE CINEMA』211号、岩波ホール、2016年8月、pp.8-9

- 野崎敏、「愛の教育装置としての仏文」、「淡青」(東京大学広報誌)、2016年9月、p.10
- 野崎敏、「《カルメン》または自由の女神への讃歌」、NHK交響楽団ビゼー「カルメン」フライヤー、2016年10月
- 野崎敏、「アクション史を塗り替えたこの3本」、「キネマ旬報」2016年10月下旬号、pp.48-49
- 野崎敏、「子どもは映画の未来である エイドリアン・クワン監督『小さな園の大きな奇跡』」、「すばる」、2016年11月、pp.340-341
- 沼野恭子、野崎敏、小野正嗣、藤井光、(進行) 辛島デイヴィッド「座談会 21世紀の暫定名著——海外文芸篇」、『21世紀の暫定名著』群像編集部編、講談社、2016年、pp.175-227
- 野崎敏、「あまりにも深い、「美」への憧憬——『ミュージズ・アカデミー』」、「キネマ旬報」、2016年12月上旬、pp.36-37
- 野崎敏、「ヒッチコックとバザン トリュフォーのふたりの父」、「キネマ旬報」、2016年12月下旬、pp.55-56
- 野崎敏、「美しい日本語 森鷗外『安井夫人』——切迫こそが美しい」、「群像」、2017年1月、pp.180-181
- 野崎敏、「男子禁制の愉悦 レア・プール監督『天使にショパンの歌声を』」、「すばる」、2017年2月、p.334-335
- 野崎敏、「「香港映画の街角」のいま」、「キネマ旬報」、2017年1月下旬、pp.51-53
- 「interview 野崎敏 評論集『夢の共有』刊行——文学と映画の「翻訳的關係」、毎日新聞、2017年1月21日朝刊
- 野崎敏、「文庫双六 セルバンテス『ドン・キホーテ』」、「週刊新潮」2017年2月2日、p.121
- 野崎敏、「エドワード・ヤンと夜の学校——『クーリンチェ少年殺人事件』のために」、「文學界」、2017年3月、pp.80-81
- 塩川徹也・野崎敏、〈パスカル『パンセ』を読む〉、「週刊読書人」、2017年2月10日
- 野崎敏、「文庫双六 フレデリック・ブラウン『さあ、気持ちがよいになりなさい』」、「週刊新潮」2017年3月2日、p.125
- 野崎敏、「文庫双六 ガーネット『狐になった奥様』」、「週刊新潮」2017年3月30日、p.127
- 野崎敏、「きみの歌はぼくの歌 ヤスミン・アフマド監督『タレントタイム』」、「すばる」、2017年5月、pp.302-303
- 野崎敏、「「あり得る」ルベン仏大統領 『自由・平等・博愛』どこへ」、毎日新聞、2017年4月13日夕刊
- 野崎敏、「文庫双六 モーム『世界の十大小説』」、「週刊新潮」、2017年4月28日、p.127
- 野崎敏、「耕論 顕在化した闇 克服の過渡期」朝日新聞、2017年5月9日朝刊
- 野崎敏、「私の三冊」、「図書」(岩波文庫創刊90年記念 臨時増刊)、2017年5月、p.57
- 野崎敏、豊崎由美対談、「海外文学への誘い」、「青春と読書」、2017年5月臨時増刊、pp.24-29
- 野崎敏、「文庫双六 穂村弘『短歌という爆弾』」、「週刊新潮」、2017年6月8日、p.127
- 野崎敏、「文庫双六 井伏鱒二『釣師・釣場』」、「週刊新潮」、2017年7月6日号、p.117
- 野崎敏、「早稲田のまちで繰り広げる作家夫婦の物語 久松静児監督『愛妻記』」、一般社団法人不動産協会広報誌「F-ORE」、2017年7月、pp.10-11
- 野崎敏、「文庫双六 谷崎潤一郎『独探』」、「週刊新潮」2017年8月3日、p.117
- 野崎敏、内田洋子『どうしようもないのに、好き イタリア15の恋愛物語』集英社文庫、解説、2017年8月、pp.236-241
- 野崎敏、「もう手遅れだ、まだ間にあう ン・ガーリオン他監督『十年』」、「すばる」、2017年8月、pp.302-303
- 野崎敏、「『ヤンヤン 夏の想い出』——エドワード・ヤンと小柄な男児の秘密」、「エドワード・ヤン——再見・再考』フィルムアート社、2017年、pp.226-236
- 野崎敏、「失われた書物を求めて」、「東京の古本市」東京都古書組合、2017年9月4日、1面
- 野崎敏、「文庫双六 カミュ『異邦人』」、「週刊新潮」2017年9月14日、p.117
- 野崎敏、「不器用で矛盾だらけの男たち」、映画「セザンヌと過ごした時間」パンフレット、2017年9月、Bunkamura、pp.4-5
- 野崎敏、「文庫双六 江戸川乱歩『黄金豹』」、「週刊新潮」2017年10月12日、p.119
- 野崎敏、「リュミエールとメリエス 映画の父たち」リュミエール!」パンフレット、東京テアトル、2017年10月、pp.8-9
- 野崎敏、「文庫双六 勝新太郎『俺 勝新太郎』」、「週刊新潮」2017年11月9日、p.119
- 野崎敏、「エイブの黙示録 『猿の惑星 聖戦記』」、「すばる」、2017年11月、pp.302-303
- 野崎敏、「カメラに愛された男、レオー」、映画『ライオンは今夜死ぬ』パンフレット、ビターズエンド、2107年11月、pp.7-8
- 野崎敏、「映画の味は健康回復の味」、「PHP からだスマイル (PHP くらしラクへる 1月増刊)」、PHP 研究所、2018年1月、pp.128-131
- 野崎敏、「文庫双六 高野秀行『ワセダ三畳青春記』」、「週刊新潮」、2017年12月7日、p.117
- 野崎敏、「清冽な『北』の経験——松家仁之『光の犬』を読む」、「新潮」、2018年1月、pp.264-267

野崎敏、「視差の刺激に満ちた体験——ジェイムズ・キャントンほか『世界文学大図鑑』、「英語教育」、2018年1月、
p.94

諏訪敦彦、「映画の楽しみをレオーとともに」聞き手・野崎敏、「芸術新潮」、2018年2月号、pp.102-105

中条省平、野崎敏対談、「ジャン=ピエール・レオーとは何か」、「キネマ旬報」、2018年1月上旬、pp.36-39

野崎敏、「文庫双六 澁澤龍彦『プリニウスと怪物たち』」、「週刊新潮」、2018年1月18日、p.117

野崎敏、「子どもは（大人も）判ってくれない 諏訪敦彦監督『ライオンは今夜死ぬ』、「すばる」、2018年2月、
pp.328-329

野崎敏、「井伏鱒二を読む喜び」、「文藝春秋」、2018年2月、pp.82-84

野崎敏・堀江敏幸対談、「再発見・井伏鱒二 対談・友釣りのエクリチュール」、「すばる」、2018年3月、pp.96-115

野崎敏、「『大いなる幻影』、反復する喜び」、「大いなる幻影（デジタル修復版）」パンフレット、川崎市アートセンタ
ー、2018年2月、pp.8-9

野崎敏、「文庫双六 井原西鶴『好色一代男』」、「週刊新潮」、2018年2月15日、p.115

柴田元幸・野崎敏・松永美穂・和田忠彦・山口裕之、「シンポジウム 翻訳という想像空間」、「世界」、2018年3月、
pp.188-199

野崎敏、「『恋多き女』、愛の波動が広がるとき」、ジャン・ルノワール監督『恋多き女』パンフレット、川崎市アート
センター、2018年3月、pp.8-9

野崎敏、「日常のひとこまに息づく美」、「ART GALLERY テーマで見る世界の名画」、第7巻「風俗画 日常へのま
なざし」、集英社、2018年3月、pp.90-91

野崎敏、「文庫双六 クリフォード・ストール『カッコウはコンピュータに卵を産む』」、「週刊新潮」、2018年3月15
日、p.135

野崎敏、「まちと映像の記憶 全編にわたって東京のまちを撮影——野村芳太郎監督『東京湾』、「FORE」一般社団
法人不動産協会、2018年2月、pp.10-11

(6) 翻訳

野崎敏（単独訳）、プレヴォ『マノン・レスコー』翻訳・解説・年譜、光文社古典新訳文庫、348p、2017年12月

野崎敏（単独訳）、アンドレ・バザン「作家主義について」翻訳・訳者解説、「アンドレ・バザン研究」第1号、山形
大学人文学部附属映像文化研究所、2017年3月31日、pp.60-85

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本フランス語フランス文学会員

「ルヴュ・ネルヴァル」(*Revue Nerval*) 誌日本連絡員

(2) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

小西国際交流財団日仏翻訳文学賞選考委員長

群像新人文学賞選考委員

芸術選奨推薦委員